

新収資料紹介

① 「長島侯増山雪斎独楽園賀詞帖」

当資料は、伊勢国長島藩の5代目藩主だった増山正賢（雪斎）が城内に独楽園と称した庭園を造った際、贈られた賀詞を折本に仕立てたものである。賀詞は全部で37点あり、詠者として、木村兼葭堂や十時梅屋、片山北海、五井蘭洲など近世大坂の文人の名前が多数見られ、増山雪斎を介した文人たちの交流がうかがえる資料である。

② 牧村史陽氏旧蔵品

大阪の郷土史家であった故牧村史陽氏の旧蔵品が寄贈された。寄贈品は書籍をはじめ、マッチラベルやチケットなど多様である。そのなかでも注目には値するのは昭和30年代の大阪の風景を撮影したプリント写真、および戦前のガラス乾板約500点である。資料は漸次整理し、調査を進めている。ガラス乾板については取り扱いが難しく、修復と適正な環境への設置が必要であるが、現在、保存方法を検討中である。

収集資料紹介

① 大阪市史編纂所所蔵津田秀夫文庫 神社調査資料

大阪市史編纂所に所蔵されている故津田秀夫氏（関西大学名誉教授）旧蔵になる資料6点を借用し、マイクロフィルム撮影を行った。資料は昭和前期の大阪府下および兵庫県下の神社に関する調査報告書であり、その解読によって宮座などの祭祀組織の把握が期待される。内訳は大阪府4冊、兵庫県2冊である。マイクロフィルム化した資料を紙焼きし、祭礼遺産研究プロジェクトが中心となって翻刻を進めている。

② 大阪中央卸売市場本場資料室所蔵「鷺池家文書」

鷺池家は、安永元（1772）年に魚問屋神崎屋平九郎からはじまり、慶応4（1868）年には雑喉場魚市場年行司を勤めた商家で、現在、同家文書は、大阪市中央卸売市場本場資料室に所蔵されている。近世・近代の帳簿類が多く残されており、葬祭時の献立や地域の人々との関係が分かる貴重な資料である。2005年度は、「文政十三年 式番諸事覚日記」・「天保五年 式番年忌葬式覚」・「弘化二年 式番葬式年忌控」・「弘化四年 参番 年忌帳」・「安政二年 道具番組帳」・「文久二年 四番年忌帳」の6冊をマイクロフィルム化し、紙焼きしたものを2部作成して今後の調査・研究へ向け準備を行った。